INTERNATIONAL MONETARY FUND
EXTERNAL RELATIONS DEPARTMENT

（参考仮訳）

プレスリリース No. 10/434
即時解禁
2010 年 11 月 15 日

国際通貨基金（IMF）
米国・ワシントン DC

IMF、SDR の価値を決定する通貨バスケットの新たな通貨構成比を決定

国際通貨基金（IMF）の理事会は本日、特別引出権（SDR）を構成する通貨のバスケット及び SDR 金利の、5 年毎の定期レビューを完了した。SDR の価値は引き続き、米ドル、ユーロ、スターリング・ポンド及び日本円が構成する、通貨バスケットの価値の加重平均を基にしたものとなる。また SDR 金利は、今後も SDR バスケットを構成する通貨の短期市場金利を加重平均し算出する。

SDR の価値

IMF は、国際貿易及び金融における各々の役割をもとに、SDR 通貨バスケットの構成通貨としての基準を満たす 4 通貨の構成比を、以下の通り決定した。これら構成比は 2011 年 1 月 1 日に発効となる。

米ドル	41.9 %	（2005 年の見直しでは 44%）
ユーロ	37.4 %	（同 34%）
スターリング・ポンド	11.3 %	（同 11%）
日本円	9.4 %	（同 11%）

SDR バスケットの構成通貨の選択基準は、2000 年及び 2005 年の見直しから変更はない。すなわち、SDR の構成通貨は、IMF 加盟国及び加盟国を含む通貨同盟が発行する 4 通貨で、新規の構成比の発効日の 12 ヶ月前から 5 年間で、財・サービスの輸出額が最も多かった加盟国或いは通貨同盟のものとなる。また、その通貨は、IMF 協定第 30 条（f）に従い、IMF が自由利用可能通貨と認定したものでなければならない。通貨の構成比は、今後もこれら通貨の発行国（あるいは加盟国が参加してい

る通貨同盟）の財・サービスの輸出額と、これらの通貨が他の加盟国により外貨準備として保有されている額を基盤とする。通貨構成比は、これまでの見直しと異なり少数点第一位を四捨五入するのではなく、小数点第二位を四捨五入して決定する。

2010 年 12 月 30 日に、新規 SDR 通貨バスケットを構成する 4 通貨のそれぞれの量が、新たな構成比に沿って算出され、2011 年 1 月 1 日に発効する。なお、12 月 30 日以前 3 ヶ月間のこれらの通貨の為替レートの平均を基に、現行及び新規の構成比で、SDR の価値が 2010 年 12 月 30 日時点で等しくなるよう算出される。

SDR 金利

同時に IMF は、SDR 金利の決定方法についても見直しを行い、今後も SDR のバスケットの構成通貨の短期市場の金利の加重平均を基に、毎週金利を設定することとした。これまでと同様、米国、英国及び日本は各国の財務省が発行する証券（3 ヶ月物）、ユーロはユーロ・レポ・レート（3 ヶ月物）の金利が、米ドル、スターリング・ポンド、日本円、及びユーロの金利となる。

2011 年 1 月 1 日に発効となる、新たな SDR バスケットの構成通貨の最終的な量を示す IMF のプレスリリースは、2010 年 12 月 30 日に発表される。同新規バスケットを利用した初の SDR 為替レートは、2011 年 1 月 3 日に公表される。また、同新規バスケットを利用した初の SDR 金利は、2011 年 1 月 7 日に算出され発表される。同金利は 2011 年 1 月 10 日から 14 日の間で有効である。SDR に関する詳細は、IMF ホームページ（www.imf.org）・IMF 財務局（IMF Finance）で入手可能である。

SDR の利用者へのサービスとして、IMF は 2010 年 12 月 8 日から、新規バスケットの通貨量の予測を行い、今年一杯 IMF のホームページ（www.imf.org）に最新の情報を毎週掲載する。通貨量は、3 ヶ月の為替レートの平均を基にすることから、これらの予測は、最終の有効な量の発表まで大きな違いはないと考えられるが、このように、2011 年 1 月 1 日に発効となる新規バスケットの最終通貨量の見込みについて、利用者に情報を提供することになる。